

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙2）

団体名	あらぐさこども食堂
-----	-----------

取組の名称	あらぐさこども食堂
実施場所	あらぐさ教室
対象地域	武蔵中原駅周辺
対象地域の特色・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅に近く通勤通学しやすいことから核家族共働き世帯が多い。保育園がたくさんあり、公園が色様々のカラー帽子園児でいっぱいになる。放課後は校門前に何社もの習い事等送迎車が待機している程、子どもも大人も忙しい生活スタイルで、地域等人とのかかわりが薄い。 ・ 風紀が良い安心安全な地域。
取組の趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活スタイルの様々な事情により、一人もしくはこどもだけで食事をしているケースが増えている。その食事内容は栄養バランスにかけていると想像つく。食卓を囲み、おしゃべりを交わしながら食べることで、食事が楽しい美味しいと感じつつ、人とつながりあって成長し、生きる力の構築の一助となることと、居場所になることを目指す。 ・ こどもからその保護者ともつながり、子育てを共有し楽しめるようにする。
実施内容・実施スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月第2と第4火曜日の18時～20時に食堂を開く。（コロナ禍の当面の間は、17時30分～19時にお弁当の提供、自宅にて食してもらっている） ・ 第1金曜日には、バランスよい栄養価のある季節を感じられるメニューを管理栄養士を中心にボランティアスタッフと立案する。

参加者の年代	子育て世代 単身高齢者	定員 (1回あたり)	20名(コロナ禍は お弁当提供50食)
実施頻度	毎月2回 (5月より)	活動日数 (年間)	23日
スタッフ体制	<ul style="list-style-type: none"> ・あらぐさ教室関係者4名 ・栄養士、調理師2名 ・調理ボランティア5名 		
連携する団体・ 連携の手法	<ul style="list-style-type: none"> ・かわさき子ども食堂ネットワークより支援情報をもらう ・社会福祉協議会情報誌に掲載 ・ほっとスペースとの交流 ・町内会等住民との交流 ・教育委員会「給食食材レスキュー“レス給(キュー)”」に登録 		
取組実施により 見込まれた効果	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の実施であったが、利用者からの要望や新たな利用者の広がりもあり、5月より月2回実施してきた。にもかかわらず更に物価高騰の暮らしの影響もあり、利用申し込みが増え続けている。しかしスタッフ関係者は皆高齢者であり50食が限度の結論を出した。その為平等性や子育て家庭等考慮しつつ、月1回の利用の協力も得ながら運営している。 ・掲示板やチラシを見て食品提供を頂くようになったり、申し込みがあったり、企業からの提供が増えたりし、子ども食堂の認知理解の広がりを感じ有難い。 ・中学生の時から掲示板を見て子ども食堂に興味があったと言う高校生が訪ねてきて、部活終わりにボランティア参加してくれている。スクールソーシャルワーカーを目指しているらしく、お弁当受け取り時の子どもや大人・スタッフとの会話を期待して足を運んでいるようだ。 ・令和5年5月よりコロナが5類感染症になるにあたって、今後の子ども食堂を会食形態にするかお弁当にするかを利用者の意見を求めた結論は、圧倒的にこのままお弁当での提供であった。しかし一緒に交流(おしゃべり)したい希望者には応えていくこととした。お弁当のやり取りの中でも関わり支え合いを大事に接していきたい。 		